

この街で、  
一緒に生きていく。



公益財団法人ヤマト福祉財団  
障がい者のクロネコDM便配達事業

# 新しいポストへ配達するたび、 新しい町の地図ができていく。

仙台市青葉区

宮城県仙台市。JR仙山線陸前落合駅から徒歩で約10分の住宅街に、社会福祉法人みんなの輪「わ・は・わ広瀬」があります。クロネコDM便事業を始めて、すでに10年以上。4〜5名のメイトさんと、1日平均約300冊を配達します。これは東北で2番目に多い配達冊数です。

「わ・は・わ広瀬」があるのは、仙台市青葉区。担当するエリアは、新しく開発中の新興住宅地と、古くからの町並みが続く地域です。両方を合わせるかなり広域となるため、車2台で配達。職員が運転し、それぞれにメイトさん2名が同乗します。月曜から土曜日まで稼働し、多い日には1日7〜800冊も配達しています。

## 『地図落とし』

朝、センターでDM便を受け取った職員が「わ・は・わ広瀬」に戻るの

に入ったDM便はかなりの重さとなるため、昇降機に積まれて、1階から2階へと運ばれます。そして、9時に仕分けがスタート。机の上に置かれた町名と住所が書かれたプレートの前に、次々とDM便を分類していきます。分類が終わると、すばやく地図にマーカーで配達先をマーク。この作業を「わ・は・わ広瀬」では「地図落とし」と呼んでいます。

「ルートをお願いします。『地図落とし』の終わったメイトさんが元気に手をあげます。すると職員が、効率よく配達できるように考えながら、配達ルートを地図上に線で書き入れます。ルートの配達順にメイトさんがDM便を並べ替えて、仕分け

## ●宮城主管支店 仙台愛子センター

面積260㎡/人口32,539人/世帯数12,557世帯

## ●社会福祉法人 みんなの輪 指定障がい福祉サービス事業所「わ・は・わ広瀬」

就労継続支援B型事業所  
2006年6月、クロネコメール便（後にクロネコDM便）をスタート。1日の配達冊数は約300冊。他にはダイレクトメールの封入封緘、ベットの用品の組み立て、お中元の発送の手伝いなど。

「障がい者のクロネコDM便配達事業」  
参加施設数 319施設 従事者数 1,635人（2018年10月現在）  
お問い合わせは……（公財）ヤマト福祉財団 DM便担当  
TEL 03-3248-0691 FAX 03-3542-5165  
http://www.yamato-fukushi.jp/

※ 2015年4月1日より、クロネコメール便配達にはクロネコDM便配達へと変わりました。



名畑康宏さん（右）は、配達地域の地図をすべて把握しているメイトさん歴4年目のベテラン。大石敏幸さん（中）は、メイトさんになって2ヶ月目。「みんなで協力して仕事をすることが楽しい、早く覚えたい」と意欲的。「わ・は・わ広瀬」片岡聖子主任（左）。



上/町名と番地を書いたプレートの前に、DM便をすばやく仕分けしていく本部正直さん。  
下/配達先を地図にマークする名畑康宏さん。DM便が複数ある場合は「正」の字を書き入れます。

## DM便配達人気の仕事 14名が待機中

毎日配達する中心メンバーのメイトさんが体調や都合などによりお休みすると、希望者が代わりに入ることが出来ます。希望者リストに名を連ねているのは、なんと14名。ローテーションでメイトさんの仕事を担当します。ヤマト運輸のユニフォームを着て、外に出て活動できるDM便配達、利用者さんにとって人気の仕事なのです。

## 複数の目と耳で確認するから 間違えない

職員の片岡聖子主任は、毎日気を

## 仕事を通して 少しずつ変わっていく

「わ・は・わ広瀬」の管理者、安田たかねさんはメイトさんたちの変化について、「DM便の仕事をしていると、室内のルーティンの作業では気づかなかつたことを発見します。たとえば、後敏に動けるとか、体力があるとか。また、配達先に着く前にスキャナーを準備するなど、それまでしていなかったことができていくことに気づくこともあります。ほんの小さな変化ですが、見つけることでうれしくなります」と話しました。

「わ・は・わの意味は、『輪は和』。人と人の輪、人と自然の和を大切に」という想いを込めています。地域の中で少しずつ変化していくメイトさんたち。「おはようございます。DM便です！」と、町に今日も元気な明るい声が響いています。

あたりで2台の車が集合。それぞれの進捗状況を報告し、予定よりも進んでいないエリアの配達があると、もう一台が助けるなどの調整をします。

## 地図を作りながら 配達する新しい町

「わ・は・わ広瀬」が担当する新興住宅地は、石と緑の町と呼ばれるほ

ついていることについて「必ず車の中で次の配達先を声に出して読み上げます。今日も、同じ町名で同じ名目、最後の番地だけが違う配達先を、『地図落とし』の段階で間違えてマールクしてしました。車の中で気づいてドキッとしたが、複数の目で見て、耳でも聞いて確かめると、間違いに気づきます」と話します。

11時少し前に、配達エリアの中間



DM便をていねいに投函する大石敏幸さん。



「おはようございます、DM便です！」と元気に挨拶する佐藤海飛さん。

ほとんどの家の玄関前に石の階段があることも、町の特徴です。ポストが門柱にある家もありますが、階段を上った先の玄関のポストに配達する家も少なくありません。12月から3月まで、降雪量が多く凍結することの多い仙台では、この階段が危険なスポットになります。メイトさんの本部正直さんは「滑るから階段は危ない。冬は気をつけて上り下りしています」と話します。

## 高い品質を維持する 頼りになる存在

ヤマト運輸仙台愛子支店 佐藤雅希店長は「ほぼ誤配がなく、安心してお任せできます。メイト連絡会などで交流し、朝の引き取りの時も言葉をお交わすなど、風通し良く進めていきたい。どんどん広がるエリアはDM便も増える。頼りにしています」と今後にも期待を込めます。

ヤマト運輸宮城主管支店 サービスセンター 菅原光悦センター長は「一人で配達していると、思い込みもあって間違いが生じることがあります。必ず複数の人の目で確認するなど、職員さんたちの誤配を生まなため、日々の取り組みは素晴らしい。それが高い品質につながっています」と語りました。



「わ・は・わ広瀬」管理者の安田たかねさん。「みんな元気に挨拶ができるようになりました。地域にもっと溶け込んでいきたい」と話します。

前列左から/大石敏幸さん、菅原石太郎さん、佐藤海飛さん、本部正直さん  
後列左から/「わ・は・わ広瀬」管理者 安田たかねさん、森智子さん、石上昭弘さん。「わ・は・わ広瀬」片岡聖子主任、ヤマト運輸宮城主管支店 仙台愛子支店 佐藤雅希店長、ヤマト運輸宮城主管支店 サービスセンター 菅原光悦センター長、ヤマト福祉財団東北支部 小原守事務長



軽やかな足取りで配達する菅原石太郎さん。「自分用の地図を作って、配達先のエリアを約1ヶ月で覚えしました」。



メイトさん歴1年2ヶ月、いつも前向きな菅原石太郎さん（右）。「配達することが好き」と、明るく元気な佐藤海飛さん（中）、職員の中津隆仁さん（左）。